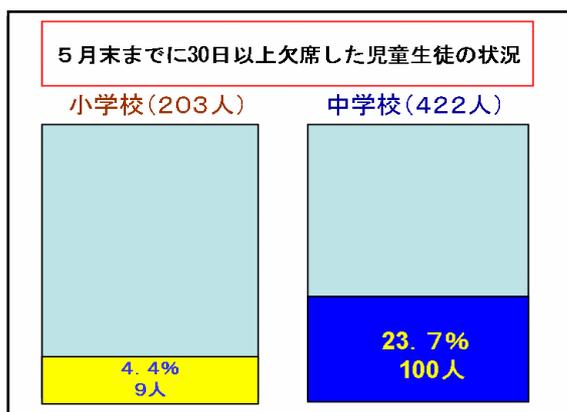


5月・6月の取り組みが本年度の鍵をにぎる ～ 調査結果からみた5月からの不登校支援のポイント ～

5月の連休明けから欠席日数が増えてくる子どもがいます。4月は、進級の新たな気持ちとプラスの緊張感の中で生活を送ってきたと思います。例年、長期欠席児童生徒の8割以上が4月から7月までの間に欠席を始めています。したがって、支援・予防の観点から、この連休明け5月・6月の取り組みが非常に大切になってきます。

昨年度 5月末の欠席状況



左の図は、昨年度5月末までに30日以上欠席した児童生徒の状況を表しています。中学校では、5月末にすでに100人の生徒が欠席日数30日を超えています。昨年度の長欠数は、422人でしたので、この数は約4分の1にあたります。不登校を予防する取り組みとともに、再登校や安定登校につなげるための取り組みが必要になっています。

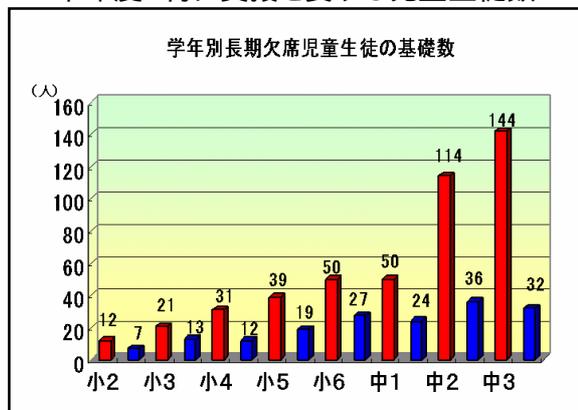
右の図は、昨年度の長期欠席児童生徒数から本年度当初心配される児童生徒数をグラフ化したものです。小学校2年生の12人は、昨年度1年生で30日以上欠席をした児童数です。

その右側は、30日～49日欠席した児童生徒を表しています。この子どもたちは、月3～4日程度の欠席なので、学校に来ている時に具体的な支援が可能な子どもたちです。しかし、欠席日数が大幅に増加する連続不登校が心配される子どもたちでもあります。

この子どもたちの再登校、安定登校(連続して登校することができる)、そして、新たに不登校を生じさせない予防の取り組み、この3つがかみ合いますと長期欠席・不登校は徐々に減少していきます。

各校では今、支援を要する児童生徒に対して、「居場所づくり」「学習支援」「人間関係づくり」を中心とした取り組みが始まっています。

本年度 特に支援を要する児童生徒数



安定登校へつなげるために

学校の中で安心して過ごせる居場所づくり

学習の遅れを取り戻すためのきめ細かな学習支援

様々な行事や活動を通した教師と子ども、子ども同士の人間関係づくり